

いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 3・4 学年

買い物は投票！

いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校の3・4年生は、「消費と生産の循環が生活を支え豊かにする」というセントラルアイデアのもと、チョコレートを切り口に、世界とつながる買い物の意味について学びを深めました。

チョコレートの裏側にある現実を知って

学習のきっかけは、2種類の価格が異なるチョコレートの比較でした。同じように見える商品でも、背景にはカカオ農家の労働環境や児童労働などの深刻な社会課題があることを知り、子どもたちは衝撃を受けました。授業では、カカオがどのようにチョコレートになるのか、生産地での生活実態、搾取の構造についてビデオを通じて学び、「自分たちができること」を考えるようになりました。

お店「Amaleti」の立ち上げ

その実践として、児童たちはフェアトレードの考え方に基づいたクッキー店「Amaleti (アマレティ)」を企画。アフリカの言葉で「やすらぎ」と「チョコレート」を組み合わせた店名に込めた願いを胸に、卵や牛乳を使わないビーガンクッキーの製法を学び、材料やデザイン、販売方法を協力して考えました。使用したチョコレートやドライフルーツは、現地農家を支援する「Raise Trade」製品を選定。看板やチラシづくり、販売トークの練習などを重ね、長野市の善光寺びんずる市で実際に出店しました。

買い物が世界を変える一票になる

来場者との対話を通じて、商品の背景を伝える経験を積んだ子どもたち。用意したクッキーは完売し、行動が社会を変える力になることを実感しました。

「買い物は投票です」というメッセージには、自分の選択が誰かを苦しめることも、支えることもできるという気づきが込められています。発表を通して、児童たちは持続可能な社会に向けた第一歩を、自らの手で踏み出しました。